

2012年から2020年

仲間たちと続けた再生事業

・・・震災で出会った皆様へ感謝を込めて・・・



2021年11月1日

相双地方地域再生創造プロジェクト実行委員会

～ 目 次 ～

はじめに【感謝】	1
第1部 『東日本大震災』	2
第2部 2012年～2020年 仲間たちと続けた再生事業	4
1. 被災地の環境カウンセラーとしての活動開始	4
2. 【ありがとう！エコフェアinみなみそうま】	8
3. 第1回～苦難を越え“環境・生活”への創造【にじをつなぐ 友・有・悠】	10
4. 第2回～苦難を越え“環境・生活”への創造【にじをつなぐ 友・有・悠】	12
5. 第3回～苦難を越え“環境・生活”への創造【にじをつなぐ 友・有・悠】	14
6. 第4回～苦難を越え“環境・生活”への創造【にじをつなぐ 友・有・悠】	16
7. 第5回～苦難を越え“環境・生活”への創造【にじをつなぐ 友・有・悠】	18
8. 第6回～苦難を越え“環境・生活”への創造【にじをつなぐ 友・有・悠】	20
9. 《環境・福祉豊かな地域づくり事業》めざそう～ 和と話 ♪ 環と輪	22
第3部 事業の復活	24
1. ～ごみエコピクニック～ I	24
2. ～ごみエコピクニック～ II	25
第4部 寄稿文その1 名倉 孝氏	26
寄稿文その2 佐久間 光好氏	28
寄稿文その3 倉田 智子氏	30
第5部 ～本文補遺～	32
第6部 寄せ書き	36

～ 感謝 ～

晩秋の時節になりました。皆々様ご健勝のことと存じます。
昨年以来、コロナ禍で厳しい自粛生活が続きました。それぞれストレスを抱えての日々だったと思いますが、この状況を逆手にして、楽しくお過ごしなされたことと推察致します。

『東日本大震災』から10年8カ月になります。歳月を経ても、当時の出来事を消し去ることは不可能です。
2011年3月11日 午後2時46分、地震・津波・翌日原発事故発生。未曾有の複合災害によって、被災地は厳しい生活を余儀なくされました。その後、放射能汚染に怯える日々と、情報過多と向き合い続けました。
人のいない街は静まり、闇に包まれた情景は不気味でした。

人と人との繋がりが深く、自然と暮らしの共生は一瞬にして失われ、地域の崩壊は進み、先祖から受け継いで来た歴史と文化の継承が途切れ始めました。
震災直後から、20km圏外の復旧・復興は進みました。しかし、長い避難生活で心身のストレスによる疾病から、命を落とす「震災関連死」が増え続けています。この地に住む誰しもがなり得る状況です。

このような状況下、私たちは何をすべきか模索しました。
約30年「環境」をテーマに地域活動を実践してきました。この活動で培った学びを、地域復興に生かそうと決意致しました。2011年の【エコフェアinみなみそうま ～15回】は直前の震災で実施不能となり、2012年に【ありがとう！エコフェアinみなみそうま】として再生まちづくりの第一歩を踏み出しました。

「再生事業」は、2013年から2019年まで【にじをつなぐ～友・有・悠】を6回。
その後【環境・福祉の豊かな地域づくり～めざそう！和と話♪環と輪】を実施しました。翌年の事業は、2020年4月18日実施予定。2月からその準備に掛かり始めましたが、コロナによって中止に至りました。

この「再生事業」は、被災地の変化と共に歩んで来ました。2013年から2015年、市民は戻らず、市内各所からの被災者の人々が、主な来場者でした。連れだって仲間たちと来場し、笑い・おしゃべりを楽しみました。久しぶりの再会を喜ぶ光景は、私たちの励みになりました。イベントは来場者と、私たち主催者が主役でした。

2016年以降、避難先から戻った人々や仮設住宅住民たちが、家族連れで来場し「子供たちが、このイベントを楽しみにしているのです」。回を重ねる度に、集う住民、参加者、実行メンバーが一つの大きな輪になりました。私たちの理念『市民・企業・行政による協働』の実現をも果たしました。

こうして、2012年から2020年まで続いた「再生事業」は、それぞれに思いの詰まった、私たちの心の財産になりました。この成果は、多くの皆様方のお力添えに拠るものです。

ありがとうございました。心より感謝を申し上げます。
これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年11月1日
相双地方地域再生プロジェクト実行委員会
会長 長澤 利枝

【東日本大震災】

《 その1 地震・津波 》

2011年3月11日 14時46分 大地震 南相馬市震度6弱。地盤の弱い小高区家屋倒壊続出。
15時35分 大津波到達。海岸沿いの集落は波にのまれ、高台に避難した人たちは、無事だった。



沿岸集落全滅



屋敷跡の献花

《 その2 原発事故 》

- 3.12 15:36 福島第一原子力発電所1号機水素爆発
原発事故の影響で、ガソリンや生活物資が提供されない
- 3.14 11:01 福島第一原子力発電所3号機原子炉建屋水素爆発
続く余震と津波警報、加えて水素爆発事故による混乱
- 3.16 6:00 福島原子力発電所2号機圧力抑制室付近衝撃音、4号機建屋の損失
福島第一原子力発電所から半径20kmの住民に屋内退避指示
- 3.18 5:45 福島原子力発電所4号機北西付近より火災発生
8:34 福島原子力発電所3号機白煙が大噴出
- 3.18～20日 市がバスで集団避難を誘導
爆発以後、住民は各自避難 市は車一台につき 燃料10リットル支給
街はゴーストタウン 置き去りにされた犬、猫が路上を徘徊



防護服が物々しい



災害瓦礫はしばし放置された

～原発事故のため行方不明者の捜索は打ち切られた～

《 その3 分断された市民 》

★ 3つの区域に分断

1. 警戒区域 20km圏内:小高区全域・原町区の一部
2. 緊急時避難準備区域 20～30km:原町区大部分無指定
3. 30km圏外:鹿島地区

★ 失われたコミュニティ

2012年以降、被災地の住民は、仮の住みかとして、アパート・貸家・仮設住宅等を選択した。

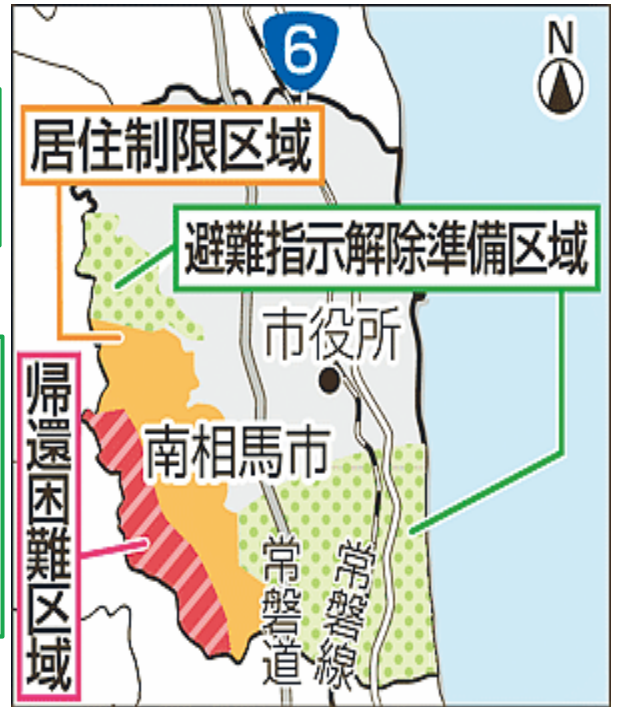
2年後、災害公営住宅・戸建ての建設始まる。仮設住宅縮小、取り壊しにより、新たな住まいを決定。

同時に始まった損害賠償は、20km圏内外の生活再建に影響をもたらした。最たるものが、区域内コミュニケーションが失われたことである

★ 今後取り組む課題

2016年7月12日、南相馬市全地域が避難解除。20km圏内住民は帰還の意思決定が出来る。小高区は、街中の整備が進むと同時に、住民帰還が始まった。

震災から10年の現在、南相馬市58,612人。内小高区の人口6,899人。帰還しない選択をした市民が多く、戻れる環境を創出することが課題である。



政府は、住民が戻れる目途が立たない地域について、2020年代に帰還できる避難指示を解除する方針。



小高駅登校時の賑わい
県立小高産業技術高校



4校合併 小高小学校となる



JR 原ノ町～小高 開通



原ノ町駅 朝のラッシュ

★ 震災関連死

「複合災害」により生業を失い、避難生活の長期化で仕事を止める高齢者が増えた。

震災前は3世代同居が当たり前、祖先からの慣習が受け継がれ、地区内のコミュニティは成り立っていた。しかし、震災と原発事故でこれまでの暮らしは崩壊。若い世代は他地域で生活再建を選び、高齢者は地元で暮らす。区域内外住民の新たなコミュニティが構築されている一方で、孤立化が進み、今なお震災関連死者は絶えない。

南相馬市 2021年4月25日、震災関連死520人。他市町村をはるかに上回る。



仮設住宅 高齢者が占める

【 第2部 】

2012年～2020年 仲間たちと続けた再生事業

1. 被災地の環境カウンセラーとして活動開始

《被災地の現状を伝え続ける》

- ▲ 2011年6月14日 NPO法人環境カウンセラー全国連合会総会（ECU）【平成23年度通常総会】において、【東日本大震災】被災地の窮状を訴えた。
- ▲ NPO法人 かながわ環境カウンセラー協議会会長 木村信幸氏は会員12名と共に、2011年8月10日、避難場所の一つ、福島あずま運動公園体育館を訪問した。
- ▲ 翌日、南相馬市津波現場へ、防潮堤付近の瓦礫撤去は進み、沿岸部に集積。内陸部は捗らない。その後、仲間たちとの意見交換会を行った。この時の訪問がきっかけで、現在も交流が続く。



南相馬市 南萱浜地区



沿岸部に集積された瓦礫



地元仲間たちとの意見交換会

- ▲ 2011年10月4日（火）～ 5日（水）【関東地方環境カウンセラー研修会】
 - ・ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
 - ・ 第5分科会【災害瓦礫の現状と課題】に 長澤利枝 がパネリストとして参加。
参加者は2日間で120名。関心が高く、質疑応答は紛糾したが、この時期に、このテーマで討議できたことは意義あることであった。設定に感謝したい。
- ▲ 2011年10月27日～28日【第2回 環境カウンセラー全国交流会】
 - ・ 会場 福島県郡山市磐梯熱海
 - ・ 基調講演「震災復興と環境カウンセラーの役割」を長澤利枝が担った。
全国各地から約50人参加
 - ・ 分科会 5つのテーマ
 - ・ 現場視察 南相馬市津波現場その他



民報記事



南萱浜地区 流された車両

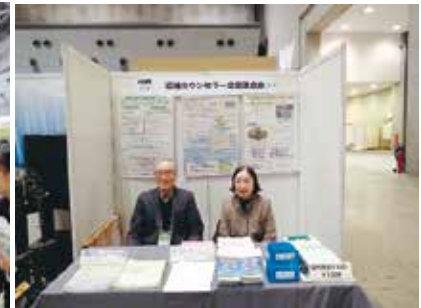


検問所 この先20km圏内
機動隊が24時間 詰める

- ▲ 日経エコプロダクツ 会場 東京ビッグサイト(江東区有明)
ECU がコーナーを設けているもので、「福島」にスペースを割いてくださった。例年 12 月の開催。
2012、2013、2014、2017年に出席した。
環境学習が目的で来場する小・中・高校生に【東日本大震災】を伝えることが出来た。(長澤・倉田)



2017年の会場の様子



☆ 毎年、軒を借りている状態。本年は角のコーナーが割り当てられたため、「福島」だけ展示可能になった。現場での対応だったため、見出しはお粗末になってしまった。見学者は都内の中学生である。

- ▲ 2013年9月17日～28日 『環境となかよし展』 ECU主催
場所 地球環境パートナーシッププラザ(渋谷区国連大学 1F)
展示:NPO法人福島環境カウンセラー協会
【東日本大震災から2年6カ月の現状】 現場取材パネル展示

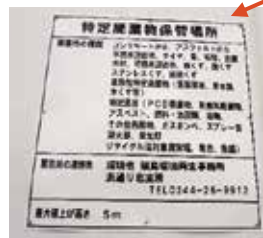
- ▲ 2013年10月12日 【第4回環境カウンセラー全国交流会】
 - ・主催 ECU
 - ・会場 千葉市「ホテルプラザ菜の花」
 - ・内容 基調講演・交流会 参加者 83人
 - ・交流会の場で、被災地の現状を伝えることができた。



「特定廃棄物保管場所」
まだ仮置き場の名称はない

～ 南相馬市からのメッセージ ～
『除染作業最盛期 完了が見えない現場』より

震災2年8カ月現在、放射能除染廃棄物の仮置き場はどこも不足。住民説明・地権者の合意で仮置き場は増加。福島県は、中間貯蔵施設建設に応じた。以後、20km圏内外、除染作業はピーク。仮置き場から中間貯蔵施設搬入完了は、2021年3月末予定。この間、被災地の生活環境は大きく変わった。



▲ 2014年11月7日 【東北地方環境カウンセラー研修会】

- ・ 会場 福島県福島市駅前「コラッセ」2F
- ・ 主催 環境省東北環境事務所
- ・ 基調講演 「除染作業最盛期・完了が見えない現場」
- ・ 長澤 利枝
- ・ ワークショップ 5つのテーマ



《各地の環境カウンセラーとの連携・交流》

▲ 2018年1月28日 宇都宮市平石地区まちづくり協議会 講演会
【震災・原発事故を伝える 2011・3・11から6年10カ月の今】

2013年7月13日 視察以来交流が続く
代表 環境カウンセラー 今井信行氏



▲ 千葉県鎌ケ谷市 「かまがや環境パネル展」 「環境フェア」
【福島を伝える】企画 環境カウンセラー 倉田智子氏との交流

2011年10月4日環境省主催「関東地区環境カウンセラー研修」で出会う。
以後、今日まで被災地を支援。公私ともに【被災地を忘れない】ための広報活動、現地取材など。
「かまがや環境パネル展」「かまがや環境フェア」において ~福島を伝える~ パネル展示を10年間継続



初年度の展示



福島を伝えるパネル



ワークショップ

長澤は 鎌ケ谷市民まつり同時開催「かまがや環境フェア」10月実施 2014~2018年 鎌ケ谷市に赴く

- ① 2015年12月 鎌ケ谷市後援 「忘れないで福島」 展示
2015年12月2~15日 鎌ケ谷市 生涯学習センター
- ② 2018年4月『福島を伝える会』設立
- ③ 被災地は日々変化していることから、取材を怠ることなく、2度ある展示の機会にパネルを毎回更新

【鎌ケ谷市民まつり 相馬野馬追騎馬武者行列】



鎌ケ谷市は、南相馬市と、歴史的な深い繋がりにより、市民まつりに騎馬武者を平成25(2013)年から招聘。「宇多郷」「北郷」「中郷」「小高郷」「標葉郷」の5郷、順送りでお出陣。毎年7万人もの観客がある。

2017年、南相馬市長の親書を鎌ケ谷市長に渡す役目を務めた。この年の騎馬武者12騎は「北郷」。帰路、常磐道茨城中郷サービスエリアで偶然「北郷」の人たちと出会う。

▲ 2018年12月27日～2019年1月3日【東日本大震災記録 パネル展示】
常磐自動車道南相馬市サービスエリア《セデッテかしま》コミュニティ広場



親子で交わした会話は？



小高に帰還した夫妻



原発事故当時 パネル説明

《忘れないで ふくしま》

【2011・3・11 東日本大震災】展
帰省ラッシュで込み合う常磐道SAでの開催。

東北各県はもとより、北海道から沖縄まで多くの
利用者の皆さんから、思いにあふれた心のプレゼン
トを沢山頂いた。
パネルを通しての「一期一会」であった

▲ NPO法人福島環境カウンセラー協会と【人と自然を考える会】の連携
2010年5月 NPO法人福島環境カウンセラー協会総会で、市民部門事業として承認、協働事業開始。

- ★ 目的 様々な自然体験を通して、地域づくりを学ぶ。
- ★ 対象 郡山市内外の大学生・専門学生
- ★ 場所 郡山市・二本松市等の里山、川、湖沼、田圃、畑（協力頂く農家数軒）

『東日本大震災』の年10月には、放射線の理解を深める研修会を開催。

毎年自然体験を通して地域と暮らしを学ぶ。

特に震災の体験を活かし、それぞれの地域の復興を
視野に、専門的にプロジェクトを立案、すでに実践して
いる学生もいる。

福島県は市民部門環境カウンセラーが少ない。この連携
事業参加者から将来、カウンセラーを志す人材が現れる
ことを願っている。



【第9回地域活動発表会】発表者勢揃い

2020年2月11日の発表から

1. 【YAMAKIYA LIVING～ふるさとの景色をもう一度～】 専門学生2年生
原発事故で、川俣町山木屋地区から福島市に避難。卒業後、ふるさと再生に取り組む
2. 【グリーンインフラによる葛尾村復興支援】 日大工学部4年生
葛尾村は1516人の人口が、原発事故で330人に減少。葛尾村を支援するため、日大工学部は葛尾村と協定
を結び、【住民と学生の協働による ～ロハスピレッジかつらお～】復興まちづくりの活動を続けている。

2.【エコフェア PART15 inみなみそうま】事情

実施決定【エコフェア PART15 inみなみそうま】の準備は滞りなく進めていた。
 ポスター100枚出来上がり。約13000枚全戸配布チラシは、印刷と区分け作業の段取り済み。
 定例会は、3月12日 午後6時。各担当の打ち合わせ。15回だけれど手は抜けない。
 出欠の確認をし、12日を待つのみ。

3月11日『東日本大震災』発生。
 仲間たちとの連絡も取れず、それぞれに避難。すべてが失せた。

エコフェア PART 15
in みなみそうま

**私たちにできること
 環境にやさしい ぐらしかた**

会場 道の駅 南相馬 (原町区高見町2丁目30番地 TEL26-5100)

日時 2011年4月17日(日)AM9:00~PM4:00

イベント

- 行政コーナー**
 - 南相馬市ごみ減量・リサイクル
 - 地球温暖化防止啓蒙・啓発
 - CO2削減対策
 - 資源循環型社会への取り組み
 - 県生活環境課コーナー
- 企業コーナー**
 - 紙のリサイクル・古紙回収(新聞)
 - 間伐材の利活用
 - 建設廃材等のリサイクル
 - 省エネ技術等の提供 実演
 - 有機・資材リサイクル
 - バイオマスプラント提示・実演
- 団体・市民コーナー**
 - やさしい環境学習(クイズ・ゲーム・すごろくいろいろ)
 - リサイクル活動紹介(古着・古布リサイクル)
 - トールペイント、木の実などをつかった壁飾り作り
 - 誰でもできるエコライフ実演
 - ミニ省エネセミナー 手作り作品展示
 - 竹と環境学習(竹で何ができるかな?)
 - エコアクション21相談
 - 食育・郷土料理実演
 - 古着の回収(洋服・着物)
 - フリーマーケットなど

◎主催 「ごみとくらしを考える市民の会」
 ◎共催 南相馬市 道の駅南相馬
 ◎後援 福島県相双地方振興局、南相馬市教育委員会、NPO法人福島環境カウンセラー協会、原町商工会議所、
 (社)原町青年会議所、相馬地方森林組合、南相馬リサイクル協同組合、あぶくま環境協会、
 南相馬市建設業組合、原町木材製材協同組合、障がい児者ひまわりの会、福島県建築士会相双支部女性部、
 原町理容組合青年部、NPO法人「みどり」と花の大地学園
 ◎問い合わせ、出展参加、フリーマーケット参加希望の方は4月13日(水)までに下記に申し込みください。
 「ごみとくらしを考える市民の会」事務局担当 長澤 TEL/FAX 0244-22-2917



北萱浜地区家屋全壊



雫地区海岸沿い全滅



南萱浜地区壊滅

我が家は、4月26日 埼玉県戸田市から戻った。
 5月1日、津波現場に入った。
 原発で手付かず、当時のまま。
 何とか、亡くなった子供さん自宅に辿り着く。
 土台だけの屋敷に、花束を置く。

【ありがとう！エコフェア in みなみそうま】



- ★ 目的 『東日本大震災』から1年、支援に感謝・地域再生活動開始
- ★ 開催日 2012年4月15日（日）
- ★ 開催場所 【道の駅 南相馬】

震災から1年1か月、4月半ばと言えまだ肌寒い。

【ありがとう！エコフェアin南相馬】10時開会。会場にはすでに多くの住民が来場。

昨年震災が起こらなければ、【エコフェア in みなみそうま No.15】を実施していたはずだった。

企業・グループなど各コーナーは、震災からの繋がりでも揃った。

NHK寄せ植え講座講師岡井氏の材料提供による、仮設住宅の彩りになる寄せ植えは大好評。

各コーナーも大にぎわいだった。

避難先から来た知人の一人は、「みんなに会いたくて避難先から来た。よかった！」と涙ぐむ。

外テントに設けた「ふれあいサロン」は、知人・友人・初対面の人たちで、話に花が咲く。

この時期、イベントの実施は難しかった。しかし、私たちは、被災地に寄り添う皆さんに感謝を伝える場を設けたいとの思いで実行。豊かな時間を共有出来た。



法螺貝吹奏で開会宣言



開会の言葉



放射能防護 マスク装着



「人形劇団21」の皆さん
応援に駆け付けた。



親子でトールペイント



ふれあいサロン 情報共有



「寄せ植え講座」



福島環境カウンセラー協議会 活動紹介



常磐道建設工事の話

3. 第1回 ～ 苦難を越え“環境・生活”への創造 ～ にじをつなぐ 友・有・悠 part I



- ★ 目的 相双地域住民へ「元気・勇気・希望」を届けるイベント
- ★ 開催日 2013年4月21日 (日)
- ★ 開催場所 道の駅 南相馬

夜半から降り出した雪で町は雪化粧。40年振りの大雪に外テントは使えない。会場の設営を変更。
 多目的ホール正面に【にじをつなぐ～友・有・悠～】の看板が際立つ。10時、法螺貝吹奏で犠牲者に黙祷。
 開会宣言。雪で出足を心配したが、楽しみで来る住民で賑わった。手狭の会場は、温もりが漂い人々を癒す。
 暖かい手料理、飲み物で話が弾む。外ホールのテントには、各コーナーが並び、クイズや実験を楽しむ。
 多目的ホールでは、最初に「鎮魂歌 浜の松風」披露。午後は「キッズ フォト ジャーナル」体験紹介。
 ラスト、県立相馬農業高校園芸クラブメンバーによるメッセージ発信には、会場から大きな拍手。
 長澤の故郷 常総市の仲間55人がバスで訪れた。雪のため到着は午後2時に。会場を一巡し、被災地現場を視察。2時間後「野馬追いに必ず来るから・・・それまで頑張っ〜」

「相双～苦難を越え“環境・生活”への創造」
にじをつなぐ 友・有・悠
 平成 25 年 4 月 21 日 (日)
 午前 10 時～午後 4 時
 会場：道の駅 南相馬

●多目的ホール
 「ここから始めるリフレッシュタイム」
 11:00～12:00
 ・歌って笑おう
 ・ゲーム
 ・防災用紙と鉛筆増設

●にじをつなぐ～友・有・悠～
 13:00～3:30
 ・会費無料
 ・無料（お茶・お菓子）
 ・お茶（お茶の淹れ方）
 ・お菓子（お菓子の淹れ方）
 ・お菓子（お菓子の淹れ方）
 ・お菓子（お菓子の淹れ方）

●ボランティア
 「ボランティアコーディネーターの紹介」
 ・ボランティアの紹介
 ・ボランティアの紹介
 ・ボランティアの紹介

●クイズコーナー
 ・クイズの紹介
 ・クイズの紹介
 ・クイズの紹介

●実験コーナー
 ・実験の紹介
 ・実験の紹介
 ・実験の紹介

●お楽しみ会
 ・お楽しみ会の紹介
 ・お楽しみ会の紹介
 ・お楽しみ会の紹介

●お楽しみ会
 ・お楽しみ会の紹介
 ・お楽しみ会の紹介
 ・お楽しみ会の紹介



春の雪 会場周辺は除雪済



会場設営完了 打ち合わせ



海に向かって黙とう



法螺貝で開会宣言

深谷慶仁氏「浜の松風」作曲に寄せて
 二〇一二年三月十一日の東日本大震災で大変な被害を受けた
 福島県南相馬市の一日も早い復興を願って震災後二年日
 の二〇一三年（平成二五年）に作曲された同日四月二日に南相馬
 道の駅で行われた復興支援イベントにおいて南相馬市在住の
 小田部さん（左）と共に八八深谷慶仁氏、杉理育の三名で
 初演された



鎮魂歌「浜の松風」披露



おらほの唄と踊り

3/11

キッズ フォト ジャーナル 当時を語る

岩手、宮城、福島の小中学生33人が撮影した【希望】 3/11 Kids Photo Journal

キッズ フォト ジャーナルとは・・・



東日本大震災で被災した子ども達が見つめている「震災後」を、世界に向けて、写真と文章で伝えるプロジェクト。岩手、宮城、福島3県の小中学生33人によって結成され、既成のメディアとは全く異なる視点から、被災地の歩みを伝えている。

2012年2月23日 講談社



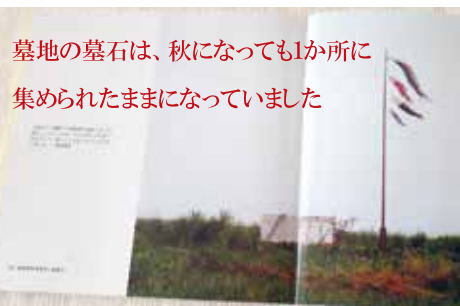
講談社 小沢一郎氏



渡部有麻君 高校1年



渡部真衣さん 中学2年
ビデオメッセージ



津波で流された跡地に鯉のぼり



この震災で学んだ事となくした物、手に入れた物は多すぎて、子供の僕の手ではあふれ出るくらいです。これだけの事はもうないでしょう。だからこれは人生を早めに勉強したんだと思います。子供には早すぎる人生の。

福島県南相馬市 渡部有麻君 中学2年

私の友達は、震災後バラバラになってしまいました。このまま会えないと思うと悲しくなりましたが、地元に戻れることになったので、友達と会えるのを楽しみにしています。しかし、地元に戻ることは、今の学校の友達と別れなければならないことなので、これもさみしいです。

福島県南相馬市 渡部真衣さん 小学6年



相農生による メッセージ



岡山県小学生からのメッセージ

4. 第2回 ～ 相双～苦難を越え“環境・生活への創造”～ にじをつなぐ 友・有・悠 part II



- ★ 目的 震災から3年、戻った人々の出会いを後押しする
- ★ 開催日 2014年4月(日) ★ 会場 道の駅 南相馬

10時開会。陽気に誘われて、大勢の人々がやって来た。

会場満席。プログラムは、震災から途絶えていた郷土芸能中心。【北萱浜お神楽】馬場地区【宝財踊り】【相馬民謡】等。厳しい避難生活を一時忘れ、久しぶりの郷土芸能を堪能。

震災後、活動の場を失った各サークルが、会場内外に作品展示、体験コーナーを出した。どこも人だかり。県立相馬農業高校園芸クラブのメッセージは、野馬追武者のシードアートの紹介。毎年新たなことにチャレンジして、来場者に元気を届ける。

（相双～苦難を越え“環境・生活”への創造）

にじをつなぐ 友・有・悠 PART II

平成 26 年 4 月 20 日(日)
午前 10 時～午後 4 時
会場：道の駅南相馬
TEL: 0244-26-5100

- 10:30～ 14:00～
NPO法人 友・有・悠
「かさぐるまに花を置いてLEDの明かりを灯そう」花の寄せ植え10:00～
(3.50mlのペットボトルを持ってきてね!) 11:00～
- 11:30～
コーラスグループ「はなみずき」合唱
- 12:30～14:00
民謡披露
【北萱浜地区御神楽・相馬民謡と踊りなど】
- こども数量無料（復興支援）コーナー
- 癒しのサロン・サークル展示コーナー
- 「忘れないうで ふくしま」パネル展示
- 調理室
～手作り郷土料理のサービス
参加と交流の場
備えろっ！
郷土にとけいっせい！



黙とう



法螺貝吹奏



【北萱浜神楽】 復活！



小高区浮城クラブ 田植え踊り



馬場地区【宝財踊り】



博打打ち 観客に大うけ



相馬農高 今年の【宝財踊り】

〈宝財踊り〉いわれ：南北朝時代、北畠顕家公一族が落城した靈山城から、家臣12人従えて逃避行。追手の目をあざむくために旅芸人を装い、踊りながら、南相馬市鹿島区まで辿り着いた。県立相馬農業高校は、昭和4年以来教育の中に郷土芸能が取り入れられ、引き継がれている。隔年、『相農芸能発表会』開催。



今年もメッセージ発信

相馬農業高校
～ シードアートで世界一の武者絵 ～



はなみずき女性合唱団



震災直後「現場取材」
三年間の記録



ギャラリー『東日本大震災』展示

fufu隊 森山直太郎「さくら」の曲で絵を描く



寄せ植え講座
アシスタントは
相農生たち。
高齢者対応は
丁寧に。



LEDでかざぐるまを作ろう



今年は、来場者が多かった。イベントが市民に広まった？ 終了後、全員集合。手をつないで、大きな輪。「ご苦労様3年目！」「よかったね！」「又、来年会いましょう！」「必ずやってね！」多くの方々に支えられて大成功！

5. 第3回 ～ 相双～苦難を越え“環境・生活への創造”～ にじをつなぐ 友・有・悠 partⅢ



- ★ 目的 厳しい避難生活が続く、イベントを通して楽しみを共有する
- ★ 開催日 2015年5月31日(日) ★ 会場 道の駅 南相馬

10時開会。プログラムのトップは箏演奏。県立原町高校箏クラブ、生涯学習箏サークル。茨城県のプロ奏者（尺八・深谷舜童氏、琴・杉山里香氏）の「千鳥」「春の海」はさすが～久々に聴く、素晴らしい音色。昨年に続き、ミュージシャン「トキのポット」演奏は爽やかで、高校生大喜び。

【会津小松彼岸獅子】は、広場で披露。優雅と激しさが際立つ。珍しい伝統芸能に大きな拍手。

実はこの舞の前に、南萱浜地区慰霊碑前で「鎮魂の舞」が奉納された。区長さんはじめ、遺族の方々にとって思いがけない供養になった。

ラストは、県立相馬農業高校生園芸クラブの3年生にインタビュー！「卒業後は南相馬市のために働きたい」という。彼らは農家の後継者としての自負があり、新しい農業を目指している。

（相双～苦難を越え“環境・生活”への創造）

にじをつなぐ 友・有・悠 partⅢ

平成 27 年 5 月 31 日(日)
午前 10 時～午後 4 時
会場：道の駅 南相馬 TEL:0244-28-5100

主催的ホール
 ●手紙の部
 ●夢って、書いてお楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会

広場イベント
 ●鎮魂の舞
 ●尺八・深谷舜童氏
 ●琴・杉山里香氏
 ●トキのポット
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会

調理室
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会

ギャラリー
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会

奉納と交流の場
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会
 ●お楽しみ会

この事業は福島県
 南相馬市からのご
 支援の賜を蒙
 りて実施します。



開会のことば



原町高校箏クラブ



生涯学習 箏サークル

名曲 「千鳥」「春の海」



歓迎の法螺貝



「彼岸獅子」

〈 会津小松彼岸獅子保存会 〉

毎年春のお彼岸になると各家々を廻って、家内安全・五穀豊穰・疫病退散を願うと共に先祖の供養をしながら、賑やかに舞を披露する。会津の遅い春を告げる「舞」である。



ミュージシャン トキのポットさん



ビンゴゲーム 最高潮



相農3年生 将来を語る



fufu 隊 居心地の良い場所



裏千家お点前



弁慶煮 特製カレー 漬物など
地産地消のメニュー
が盛りだくさん！



(株)高良 25回継続出展
リサイクルとクイズコーナー



(株)ネクスコエンジニアリング東北
出展も「社会貢献」のうち



外もにぎやか



好天に恵まれ大勢の人々でにぎわった。震災4年目 容易に会えなくなった知人、友人たちとの再会を喜ぶ
様子があちこちで見受けられた。私たちが更に多くの出会いを頂いた。

6. 第4回 ～ 参加と交流の場～未来のまちを足元から～ にじをつなぐ 友・有・悠 partIV



震災 5年経ったなあ～なんなんだか？こんでいいんだか？

- ★ 目的 会場で、日頃思っていること、考えていること、悩んでいること等を話してもらい、これからのまちづくりを描く
- ★ 開催日 2016年5月29日(日) ★ 会場 道の駅 南相馬

【～なんなんだか？こんでいいんだか？しゃべってみっぺ】どのような展開になるのか、ぶっつけ本番。司会者が、会場の人たちに、日頃思っていることを聞いて回った。少し経つと本音が飛び出した。つられて次々としゃべる。日頃の不満を口にする、まわりから「んだ、んだ」と相槌。みんなストレスが溜まっている。あちらこちらのコーナーで、話に花が咲く。

来場者が年々多くなる。様々な困難を越えての5回目。そして今年行政が参加した。私たちの理念「市民・企業・行政」の連携が実現できた年になった。各コーナーは、なじみの来場者で話が弾む。イベント終了、当日までの苦勞が報われる。

＜参加と交流の場～未来のまちを足元から＞

にじをつなぐ
友・有・悠
～震災 5年たったなあ～
なんなんだか？
こんでいいんだか？

＜多目的ホール＞

★ 「なんなんだか？こんでいいんだか？しゃべってみっぺ！」 10:30/14:00
しゃべりたい人、大歓迎！

★ 「未来の森」 みんなの思いを未来の森に届けよう！
NPOの法人みんなの森

★ 雑談 ★ 今時ちんどんや
★ 「未来の森」のワークショップ
★ ジャズでニューアートのサウンドスケッチ
★ ひばり体操気楽会 ★ トゥールイベント
★ 鶴ヶ島大船のイベントマナー講座
★ サークル活動、手芸、折り紙、草木染など
★ さびこセンターびあ作品 ★ 学習者付体験

平成 28年 5月 29日(日)
午前 10時～午後 3時
場所:道の駅南相馬

＜応酬イベント＞ 10:15 / 13:30 2回
★ 道の駅せせらぎ講座 観望士が教えます...

＜ギャラリー＞

★ 「忘れたいふくしま」展示
★ ネルト展示
★ 南相馬市立博物館資料展示
★ 南相馬市生活情報課/パネル展示

＜外注＞

★ ユーバーボックス
★ 和良農林事務所森林コーナー
★ ナカスコープのプレゼント
★ 餅(餅屋)や古家園芸とのイベント
★ パーティー
★ 春の餅
★ 「あまがた」手作り食コーナー
★ 木工教室

主催: 南相馬市地域再生推進プロジェクト実行委員会
共催: 道の駅南相馬
協賛: 南相馬市 南相馬市教育委員会 (社)南相馬市観光協会
南相馬市南相馬高等学校
南相馬市ボランティアセンター
南相馬市立博物館
南相馬市立図書館
NPO法人まぶらとまぶら協会、NPO法人南相馬サポートセンター
ひばり体操気楽会

連絡先: 広報課 電話番号: 0244-22-2927 E-mail: info@magaki.jp



なんなんだか？こんでいいんだか？



ぶっつけインタビュー



なじよしでいいかわかんねー
あちらこちらでしゃべくり



一人一人にインタビュー

「これまで、み～んな大変な思いをしてきた」 慰めと共感の場



「未来の森」 fufu 隊
素敵なアート



ミュージシャン 歌と語り



震災当時の話から現在まで

県林業課「my椅子作り」順番待ち
ボランティアさんの手を借りて
閉会後も作業は続いた



「寄せ植え講座」
開会前から並ぶ 今年は2人の
相農卒業生が指導



コスプレ 甲冑姿



スーパーボール 大人気 昔だったら金魚すくい！

今年は、家族連れが目立った。お天気に恵まれたこと。日曜日なので、家族連れがとて多かった。顔なじみ常連さんも多い。歩行者天国など大きなイベントの開催はまだ出来ないため、ここが唯一のお楽しみ会場になった。



《ニューアートサウンズアンサンブル》
結成40年。団員が増え続け40人に。
海外へも遠征するジャズ演奏楽団。
しかし震災で離散。
地元の4人で演奏を開始。



後片付けをしてから一同ホールに集合。
お互いに、お疲れ様・ご苦労様のことを
掛け合う。
毎年の事だが、
仲間たちの心が満たされる瞬間だ。
最後は恒例ハイタッチ～！

7. 第5回 ～ みんなでたのしもう！～ にじをつなぐ 友・有・悠 V



- ★ 目的 相双地域住民に、元気・勇気・希望を届ける。
『自立・文化・環境・教育・福祉』の向上と、『心のケア』を目指す
- ★ 開催日 2017年5月21日(日)
- ★ 会場 道の駅 南相馬

住民の生活基盤が確立し、気持ちにゆとりが出てきた。日常生活を取り戻し、外出の機会が多くなった。その延長に、私たちのイベントがあった。
各地区のコミュニティが失われたこと、避難によって人と人との繋がりが薄れたことに、みんな懸命に耐えて来て糸が切れそうな震災6年目。
イベントで 一日を明るく過ごす場所にしたい。
多くの方々が来て頂けること。いろいろな場所があっていい・・・来場者の期待に応えられるか。

みんなであつたのしもう！
にじをつなぐ
友・有・悠
～今年で5回目です～

平成29年5月21日(日)
午前10時～午後3時
会場：道の駅南相馬

＜多目的ホール＞
＊南相馬音楽団 11:00～11:30
＊琴吉児童合唱団八つお祭音楽 11:30～11:35
＊ミュージシャン(トキノボット)キヤウーまうせ 11:35～12:00
＊ミュージシャン(藤原舞音)ふれーんずのうた 12:00～12:30
＊ななちゃんやっちゃんやっちゃん 12:30～13:00
＊ジャズニューアートサウンズアンサンブル 13:00～13:30
＊フューチャー 演奏会 各地のみなさんご参加歓迎(13:30～14:15)
＊福祉科「有難う、ありがとう」の心 作りおき物
＊サークル活動 予定 折り紙 集まる 折り紙 折り紙 折り紙
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物

＜お祭り＞
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物

＜お祭り＞
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物

＜お祭り＞
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物
＊お祭りセンターお祭り物



新聞記事になった「キッズフォトジャーナル」 開会宣言前のお知らせ



【相馬野馬追太鼓】
「疾駆」「駿雷」勇壮な響き

《ニューアートサウンズアンサンブル》
大漁旗で作った手作り衣装が映える



和の衣装とジャズ「千と千尋の神隠し」「HANABI」他10曲



会場全員で「花は咲く」を合唱



《 ひとりオーケストラ 》 市職員

「震災後、子供たちが喜ぶことをしたいと思っていた。ギター演奏をしていたので、コンセプトは、15楽器を1人で使って、音楽を奏でることに。



試行錯誤、ようやくメロディになる。レパートリーが多いので、要望に応じている」

アンコールは

上を向いて歩こう

また逢う日まで

など



自立研修所 えんどう豆 ・ ビーンズ コーナー



就労継続支援B型事業所

きぼうのあさがおコーナー



今年は 相農生 OG・実行委員が指導



「寄せ植え」 テーマ…春の彩り



南相馬市生活環境課コーナー
ごみ減量を訴える



バイオ技研 「堆肥」展示



県林業課 大賑わい 整理券発行



終わりは全員集合で・・・
「お疲れ様」で労う。仲間たちに、感謝を込めてのハイタッチは、欠かせない。
来年もお会いしましょう！

8. 第6回 ～ みんなでたのしもう！～

にじをつなぐ 友・有・悠 VI



★ 目的 再生キーワード『文化・教育・福祉・環境』の構築
住み良い地域づくりを目指す

★ 開催日 2018年5月20日(日) ★ 会場 道の駅 南相馬

南相馬市の生活環境が整って来た。市民活動の復活、新たなまちづくりを模索。少しずつ街が変わっていく。私たちの地域づくりは、1995年6月【ごみとくらしを考える市民の会】から始まった。環境問題をテーマに、様々な取り組みを行い、2000年には、福祉と繋がり輪が広がった。市民主体のまちづくりの先駆けになる。

更に、輪は広がり、県内外の環境団体とのネットワークを構築できた。地域づくりの楽しさが広がっていく。しかし2011年『東日本大震災』が起き、16年間続いた活動は休止。2012年、事業を再開。以後7年間事業を続けている。

みんなたのしもう！
にじをつなぐ
友・有・悠
～今年で6回目です～
平成30年5月20日(日)
午前10時～午後3時30分
場所:道の駅南相馬

＜多目的ホール＞

～スタートメニュー～
● 開演
● 10:00～10:15 開会挨拶
● 10:15～10:40 ひとりで住む社会科
● 10:45～11:15 飯沼節歌謡大会
● 11:15～11:30 新舞踊隊の演習
● 11:30～11:55 新舞踊隊の舞臺発表
● 11:55～12:30 おいとこ踊り
● 12:30～12:40 パンタイム
● 12:45～13:00 音楽隊の演奏
● 13:00～13:15 茶会
● 13:15～14:00 フォークソング
● フォークソングのライブ

～楽しいコーナー～
○バクテリア 楽団 演奏
○おもしろクイズ
○おもしろクイズ
○おもしろクイズ

～各ジャンプ～
● 新舞踊隊の演習
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表
● 新舞踊隊の舞臺発表

大好評！《花の香せ織八景》 楽隊発表
場所:広場 イベント会場 10:30/13:30 2回



開会の法螺貝



参加者多数



門馬市長 祝辞



開会挨拶



〈南相馬&杉並 トモダチプロジェクト〉
災害相互援助協定を結ぶ南相馬市と杉並区。子供たちも歌とダンスで交流



太鼓・法螺貝の大合奏



馬場地区【おいとこ踊り】



パントマイム&コメディ Joyさん



幸水梨子さん こんにちは



ジャズ 今年も会場満席
「ニューアートサウンズアンサンブル」



ウエルカム！
どなたも歓迎

午前 11 時、人出ピーク。
my椅子作りと寄せ植え講座に殺到。実行委員、ボランティア
メンバーだけでは足りない。出店者が急遽応援。
～天気と出足～ は比例する



(株) 高良 工夫を凝らした出展



生活環境課【リサイクル展】



社会福祉協議会 初参加



行列のできる「my椅子作り」



老いも若きも



完成
良く出来たかな



今年の「寄せ植え」



西武緑化管理(株)
ロボット芝刈り機実演 充電型



ボランティアの皆さん
ありがとうございました。
再見！ハイタッチは
欠かせない

9. ～ 環境・福祉の豊かな地域づくり事業 ～

めざそう～和 と話♪環と輪



- ★ 目的 「環境と福祉」の充実を求め、心の豊かさを取り戻すこと。
- ★ 開催日 2019(令和元)年5月19日(日)
- ★ 会場 道の駅 南相馬

令和元年。新しいテーマ《めざそう～和と話♪環と話》。新たな地域づくりを模索する。
 テーマ《めざそう～和と話♪環と輪》は、四文字の「ワ」にそれぞれの意味を込めた。

- ▲ 和・・・やわらぐ・なごやか・仲がよいこと
- ▲ 話・・・話す・話し合う
- ▲ 環・・・回る・回らす
- ▲ 輪・・・お互いの繋がり・まるくする

新たな地域づくりは、仲間たちとの深い信頼関係、広がる多くの出会い、福島県及び南相馬市行政との繋がり構築。それは未来志向のテーマに繋がる。

＜環境・福祉の豊かな地域づくり事業＞

めざそう～ 和と話♪環と輪

令和元年5月19日(日)
午前10時～午後3時
会場：道の駅南相馬

＜多目的ホール＞
～ステーション～

- ★ 開催
- ★ 10:00～10:15 開場挨拶
- ★ 10:15～10:40 南相馬健康委員会
- ★ 10:40～11:10 北相馬健康委員会
- ★ 11:10～11:50 さぼーとセンターぴあハート演奏
- ★ 12:00～12:30 のしあみんだけ演奏
- ★ 12:30～13:00 ハートタイム＆コメディ
- ★ 13:00～13:30 南相馬＆杉並トモプロライブ
- ★ 13:30～14:30 ジャズ
“ニューアートサウンスアンサンブル”
フィナーレ みなさんと「花は咲く」を歌う

～楽しいコーナー～

- ★ キルト展 トールペイント
- ★ 花のれんがサロン
- ★ さぼーとセンターぴあ作品展示販売
- ★ ワタリス 動物生体小物作品
- ★ 美術リサイクル作品
- ★ ファミリー小物＆服の老舗化
- ★ アトリエron 島の洋装屋さん
- ★ 社会福祉協議会認知症いっしょ
- ★ 生活福祉課 ごみ分別等の啓発啓発
- ★ (株)島根 クイズでワッツをアット
- ★ 音の壁 おいしい漬物いろいろ
- ★ 「あさがお」手作り展コーナー
- ★ (有)色山建築 木工教室
- ★ ayプランナー作りコーナー
(県福祉行政課事務所)整理券有り
- ★ ハイオ科技园 発酵有機堆肥
- ★ 自動車文化展(オートモア)実演
- ★ 西沢緑化管理株式会社
- ★ ネクスコ交通情報コーナー
- ★ 防災食糧備蓄コーナー

＜花の寄せ植え講座＞⇒広場イベント会場

整理券発行 9時30分に午前の部・午後の部
100枚同時配布

○主催 南相馬市環境共生プロジェクト実行委員会
○協賛 南相馬市の若
○後援 南相馬市 南相馬市青年委員会 南相馬市社会福祉協議会
○協賛 南相馬市福祉センター 南相馬市健康センター NPO法人セーブザ・ツリー
○協賛 マチアツブシ環境計画委員会
○協賛 南相馬市健康センター NPO法人さぼーとセンターぴあ
NPO法人あさがお 南相馬市福祉協議会
南相馬市健康センター 南相馬市福祉センター

連絡先：南相馬市 電話番号：0244-02-2017 E-mail: tohri.nagasaki@gmail.com



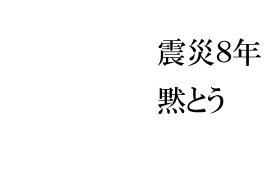
新たな始まり



今年も参加者多し



市長
メッセージ



震災8年
黙とう



さぼーとセンターぴあ 歌と踊り U・S・A にじその他



南相馬＆杉並トモプロライブ トモダチ盆唄



【零神楽】再興 後継者育成は悩み



メニュー盛りだくさん パントマイム 篠笛



久しぶりに一堂に会した 建設業ファミリー



ジャズに聞きほれる



社会福祉協議会コーナー
車いす体験
スカーフボール



ネイルサロン・・・
年齢・性別不問 盛況



寄せ植え講座始めて
もう十年たった



郡山市、南相馬市「アマチュア無線会」
合同で展示・実演



新しいテーマ「和やかに、おしゃべりを楽しみ、会場を回りながら、人と人との繋がりを深めた」イベント無事終了。大勢の人で賑わいました。ハイタッチ～で締めくくりありがとうございました。

【第3部】

事業の復活 ～ ごみエコピクニック 1 ～

自然に親しみながら…
ごみエコピクニック
にお出てください！

★ 日 時 平成 29 年 9 月 10 日(日)
午前 10 時開始(9時 45 分集合)
雨天の場合は 9 月 17 日(日)に延期

★ 場 所 東ヶ丘公園 西側駐車場

★ 服 装 長袖・長ズボン・長靴又はズック
《軍手・ごみ袋・ごみばさみは準備します

ごみエコピクニックの後は、たのしい食事タイム
だれでも参加大歓迎！ 家族の参加大歓迎

主催：相双地方地域再生創造プロジェクト実行委員会

協力：南相馬市生活環境課

15年続けていた『ごみエコピクニック』は
震災により、6年間中止を余儀なくされた。

この間、市民のストレスは日常生活に及ぶ。特に
飲食で解消することが当たり前になった。結果、家
庭ごみ排出が増え続ける。一般ごみ排出は年々増
加。仲間たちや市民有志から、『ごみエコピクニッ
ク』復活の声が上がった。合意を得て、震災7年
2017年9月17日(日) 市民による啓発活動として
実施。

広大な東ヶ丘公園を、4コースに別れて歩く。
初秋、散策を兼ね、自然と触れあい、汗をかきなが
ら、歩くこと1時間。皆さんのごみ袋はいっぱい。
参加者約80人、ごみ量約軽トラック1台分。
開催してよかった。



生活環境課よりプラスチック分別説明



道路脇のポイ捨てごみ



1か所に集める



清掃の後は、すがすがしい気分で 昼食



「危ないから 気付けてな～」

～ ごみエコピクニック II ～

市民参加型エコ活動 ごみエコピクニック

- ★ 日 時 令和2年10月18日(日)
午前10時開始 (9時45分集合)
雨天の場合は中止
 - ★ 場 所 東ヶ丘公園 南相馬市博物館 北側駐車場
 - ★ 服 装 長袖、長ズボン、靴は長靴又はスニーカー
《軍手・ごみ袋・ごみばさみは準備します》
【コロナ対策を徹底して行います！】
 - ★ マスク着用・軍手又はゴム手袋持参
 - ★ 人との間隔をとってごみを拾う
 - ★ 手作り昼食です(一人分ずつ用意します)
 - ★ 食事は横並び、間をあける
- 主催: 相双地方地域再生創造プロジェクト実行委員会
後援: 南相馬市 協力: 生活環境課

2020年3月ごろからコロナ禍で、生活様式一変。自粛生活が続く。

『ごみエコピクニック』実施の打ち合わせ。コロナ対策を徹底して行うことで全会一致。食事は、パンと飲み物。終了次第解散とした。多く市民が集まる。約75人の参加。紅葉の秋を満喫した。



自粛生活からの開放



一緒に食べたら
何でもおいしい



雑木林は紅葉が見ごろ。
大きなブナの木にキノコの群生。
ヒラタケ？



篠笛奏者おんたけさんと
出会う。
思いがけないコンサート

【第4部】

寄稿文 その1

大震災からの1日も早い復興を願って ～『震災復興絆リンゴ』をお届けしました～

名倉 隆

東日本大震災発生当時、私はNEXCO東日本のグループ会社である(株)ネクスコ・エンジニアリング東北(仙台)に勤務していました。

震災直後、私たちは本来の使命である高速道路の復旧に全力を傾けると同時に、被災者の皆様と一緒に復興に向けて進んでいきたい、という気持ちで『震災復興リンゴ』の製作を思い立ちました。

『震災復興リンゴ』とは、『絆』の文字をシールリンゴとして栽培したものです。

実は・・・製作過程の裏話を暴露します。

最初の年はリンゴに、『がんばろう東北』の文字を入れたのですが、リンゴの大きさを考えると文字が長すぎて、シールの一部が浮いてしまうことがわかりました。よって次の年からは、『絆』の一文字にした次第です。

リンゴは福島市西部の大笹生(おおざそう)地区で果樹園を営む阿部尚一(ひさいち)さん、マツヨさんご夫妻のご協力により栽培されました。

2011年秋、福島郊外の阿部さんの果樹園に『絆リンゴ』の収穫の時期が来ました。

そして12月、福島・宮城・岩手の3県のボランティアセンター等にリンゴをお届けすることができました。

ちなみに、南相馬市とネクスコ・エンジニアリング東北とのご縁は、当社の社員であった草野信さんが、長澤利枝さんが会長であったNPO法人福島環境カウンセラー協会の会員であったことがきっかけです。

その後、6年間にわたり、毎年リンゴをお届けしましたが、子供たちをはじめとした南相馬市の皆さんに笑顔と驚きの顔で受け取ってもらえた時の感動は今も心に残っています。

絆リンゴの栽培、配布は2016年に終了し、私もエンジ会社を退職しましたが、これからも長澤利枝さんはじめ、南相馬市の皆さんと一緒に活動を続けていきたいと思えます。



絆リンゴを栽培された阿部尚一さん(左)
とエンジ社長末岡眞純(当時)



絆リンゴを栽培された
阿部尚一・マツヨ御夫妻(中央)

参考までに南相馬市の配布先を記載します。

- 2011.12.23 南相馬市鹿島区友伸仮設住宅
- 2012.12.23 南相馬市立大甕小学校
聖愛保育園 相馬市立磯部小学校
- 2013.12.16 南相馬市 介護老人保健施設 3箇所
福寿園 けやきデイサービスセンター
デイサービスセンター しゃりん梅



南相馬市鹿島区友伸仮設住宅
2011.12.23

2016.12.01 NPO法人さぽーとセンター（ えんどう豆、ビーンズ、ぴーなっつ ）

2015.12.17 南相馬市鹿島中学校サテライト校

2016.12.13 かしま保育園 かみまの保育園 さくらい保育園 あずま保育園&支援センター



NPO法人さぽーとセンター 2014.12.01



全員集合



研修生からお礼の手紙



介護老人保健施設 2013.12.16



鹿島中学校サテライト校 2015.12.17



かみまの保育園 2016.12.13



かしま保育園 2016.12.13



あずま保育園 2016.12.13



さくらい保育園 2016.12.13



1歳児には リンゴが重たい



【東日本大震災の回想とこれから】

環境カウンセラー 佐久間 光好

郡山市アマチュア無線実行委員会 会長

1. はじめに

南相馬市－2006年当時の原町市は、かの無線塔が実在しているところからであり、もう長い付き合いになる。いつも塔を見上げてあのアメリカに電波を飛ばせていたのだな、と思いをはせていた。東日本大震災も、地震・津波・原子力発電所事故と多重苦をかみ合わせ南相馬は辛苦をなめるに至った。

当時からの付き合いもあり、今回振り返る機会をいただいたので我流でしたためてみることにする。

2. わが身に降りかかった事実

2011年は揺れた年で、「最近よく地震があるなあ」と思っていた。よく頻繁に感ずるようになってきていたが、大惨事になろうとは想像していなくて、自分の経験値からも想定することはしなかった。しかし、実際揺れが続き、棚を推えながら「ひよっとすると、家がつぶれる」と感じるまで時間がかからなかった。

わずかな時間の中で、棚から物が落ち、ドアがふさぎ、ガラスは割れ、あたり一面散乱した。幸いかすり傷と打撲、程度で事なきを得たが家屋はひびが入り、クロスは破けた。修理が終わった跡を見る度に、あの時が脳裏に蘇る。

ここまでなら、いつものパターンで大きな地震であったとあきらめもつくが、さらに津波が発生、発電所事故となる。これはいつも言っていることだが、余計であって、これがなければもっと早く復興できていたのに、と思う。

台湾へ行く機会があり、日本と同じ地震が多いところで博物館や、日本人学校を訪れ竹とんぼでの交流をして帰ってきた。台湾の子供たちは竹に思いを描き私に持たせ、南相馬に届けるに至った。



(台湾の子供たちから託された 竹に書かれた応援メッセージ 長澤さんに託す)

3. これから・そして

★ 津波と竹林

私は、以前から邪魔者にされている竹林の生態及び活用の調査研究をしている。

震災後すぐに近くの竹林を視察、亀裂した地層に育つたくましい竹の姿を追った。竹を炭にした竹炭をまき放射線の減衰を調べたりもした。津波の被害を受けた相馬市からいわき市勿来まで歩き現状を調査した。これらの事実から、内閣府にはこれからの100年後にわたる復興計画として意見書を出し、防風林は成長度の違った植物を植え、全体的に検討すべきと進言した。

又、復興支援として竹とんぼを作り続け、カウンセラーの仲間たちと各避難所や幼稚園、保育園、学校に訪問して渡した。兎も角作り続けた。約2000個ほどだろうか。

竹とんぼ支援での深い思いがある。郡山市ビックパレットでの事。長澤氏が1人の男の子と対峙していた。「うるせえ！ばばあ」唾を飛ばした。それでもその子と向き合っていた。外に出ると、男の子が竹とんぼを取りに来た。



津波で流されなかった竹林



竹とんぼ作り



★ これからの防災無線の役割

いろんなところで話をすることがあるが、太平洋の海の底では活発に太平洋プレートが潜り込んでおり、これが福島県沖地震の正体なのであるが、これを止めることはできないのであるから、今後これらが原因で何かが起こっても、被害を最小限にすることをしつゝゆかねばならないとして、防災・減災に無線で取り組んでいる。相馬・原町や浜通りは阿武隈高地がそびえ中通りと一線を画しているため、高い周波数の電波による通信が困難である。そこで、南相馬市立総合病院に電波中継局をアマチュア無線ボランティアで立ち上げ、県立医科大学や中通り、会津地方病院と通信できる体制にした。このことで福島県、中通、会津、浜通り各地域での連携ができることになったのである。電話回線が不通になっても連絡できる体制ができたのである。前述したプレートの動きは将来、地震や火山、気候変動など多くのことを引き起こすかもしれない。電気、交通、通信などの遮断が起きないとも限らない。大いに我々が持つ経験を活かし、予知しながら故郷と共生したいものだと思っている。

原町無線塔がなくても今や簡単に災害時にもアメリカに連絡が取れる時代となった。いつしか海外との通信訓練を南相馬からしてみたいと考えている。本当の絆づくりをするために。

4. おわりに

今回、このような回顧文を書かせてもらえる機会をいただき、南相馬市の長澤利枝様に厚く御礼を申し上げます。氏とは環境カウンセラーとしての仲間であり、震災前後から県内外に出向き、「一生懸命地域」を考えてきました。震災直後から被災地に寄り添う様々な事業を共にしてきました。今なおカウンセラーとしての活動を支えています。

感謝しつつ、南相馬の発展、市民活動家の皆様のご活躍を祈念いたします。



南相馬にて 防災無線訓練 と 炊き出し訓練 門馬市長と。
2019年5月19日【めざそう〜和と話♪環と輪】イベントコーナーで



「福島民報」2021年10月21日記載

【震災との関わり】



倉田 智子 環境カウンセラー

2011年10月、EC研修で「生物多様性保全活動促進法と環境カウンセラー」のテーマを分担し、この時長澤利枝さんと出会った。南相馬市でただ一人のEC、福島県ではただ一人の女性ECと伺い、離れていても仲間として何か手助けできることがあるのではと思った。

翌年4月、南相馬市をたずねた。会場は地元の方々でにぎわっていた。そこは大家族が離ればなれに暮らすようになって初めて、地域の有志が場所を設定した家族のふれあいの場であり、誰ともなく震災後の無事を確かめる再会の場になっていた。

会場の舞台の花に目が留まった。思えば原町迄の経由地福島では、新幹線通路も駅前広場も、花木にあふれていた。しかし路線バス沿道の山々はまだ春が浅く、ヤマザクラの色は淡く小さく、一緒に出るはずの紅い葉はなく、寒々としていた。春が遅かったとは思えず、自然までが委縮している感じがした。それだけに会場の花から発せられた「歓迎」のメッセージには、ほっとした。

調理場では郷土食が振舞われ、奥州に義経と共に逃れた武蔵坊弁慶に因むという「弁慶煮」ほか、初めて食する味のパレードだった。地元の皆さんは在りし日の食卓を懐かしんでいるようで、会場には和やか、穏やかな時間が流れていた。食までもが、土地の歴史だった。

沿岸部に案内されたが、そこには想像を絶する凄まじい光景が広がっていた。この破壊に遭遇した方たちは、どのようにこれまでの時間を過ごしてきたのだろう。分別された「がれき」の山にも言葉が出なかった。復旧に使える資材は放射能への懸念から、しばらくは現状のままだという。

被災地の現状を広く知らせたい思いが募り、7月の鎌ヶ谷市環境展で展示を試みた。テーマは「がれきを分別した町」。展示の内容から担当部署のクリーン推進課に相談し、展示が可能になった。

2013年、千葉県でECの「全国交流会」があり、【忘れないで福島】という資料を配布した。長澤さんと私の協同作業第一作である。タイトルの発端は産経新聞の記事であった。

南相馬市を訪れた記者に、タクシー運転手は【南相馬の壊滅的な状況は今も続いています。テレビがやりませんからね。もう東京では忘れられてるでしょう。もうキレイになっていると思ってるんじゃないですかね……】と言い、記者氏はこれらを踏まえて【個々が目を向けて「気にかけること」が大切】とまとめていた。

この記事と同じころ、南相馬へ出かけていたのだった。

当初南相馬市に行くには、新幹線で福島まで、そこから路線バスを利用した。川俣、飯館を通過し、阿武隈山地を超えると、太平洋まで見渡せた。車窓の外に拓がる光景は毎回変わる。時間の経過とともに、交通手段を選べるようになり、直行バスは2度利用した。

地元の方の利用には便利だが、出かけて行く身から考えると、時間的に不自由であった。しかし車窓の風景は、除染が進み、その都度変化があり、目をみはらされた。

福島県の北端、新地まで行き、浪江に南下する。そのまま国道6号をいわきまで辿り、特急2本を乗り継いで千葉・柏まで帰ったりした。長澤さんの現地レポートを拝見するのに、大変役に立った。

訪問の都度、写真を撮り、ファイルを作成している。鎌ヶ谷市には年に2度、展示の機会があり、このことは願ってもないチャンス — 市民の方々に被災地を知っていただく機会である。

2013.4.21、福島再訪では40年ぶりという春の雪に見舞われた。福島駅への路線バスの車窓に飯館村旧村役場に常駐するパトカーの轍は繁く雪に残り、特産品の牛肉を扱うミートプラザは雪に覆われ、誰一人立ち入っていない～この日この時でなければ見られない光景に巡り合わせた。ここに披露することは不適切かもしれないが、「巡りあわせ」というものをお知らせしたいと思う。



東日本大震災直後の首都圏は、東京を除き計画停電があり、鉄道の間引き運転のみならず、駅も街も照明は落とされ、エスカレーター、エレベーターは止まっていた。人々は息をひそめて暮らし、停電が解消されても、夏の夜とてクーラーをつけることなく、廃棄熱も運転音もない静かな闇と不安が広がっていた。

千葉県では東京湾のベイエリアでは液状化現象があり、その思いがけない破壊力は全国に知られることになったが、太平洋側については県民でさえ、大して認識していない。

2018年早春、九十九里浜方面へ出かけ、有料道路を嵩上げした防潮堤や、海浜部には何も作れない状況を目にした。「海の駅」の青いポストは悲しげに見えたが、盛夏だったらまた印象は違っていたかもしれない。

海岸津波対策事業位置図



「千葉県のWEB サイトより」

片貝漁港 海の駅のポスト

最後に

福島滞在中、長澤さん、原さん、岩橋さん、佐山さん、名倉さん、米澤さん、実行委員の皆様方に大変お世話になりました。ありがとうございます。お礼が末尾になってしまい、失礼しました。

福島への傾注度が高かったため、福島出身と思われています。実際は東京と千葉以外に住んだことはありません。この指とまれの一員でした。

【第5部】

～ 本文補遺 ～

その1. 被災地の環境カウンセラーとしての活動開始

(4P～7P)

〈環境カウンセラーとは・・・〉

環境カウンセラー登録制度とは、「[環境カウンセラー登録制度実施規程](#)」(平成8年環境庁告示第54号)にもとづき、環境省が実施している登録制度です。

市民活動や事業活動を通じた環境保全に関する取組において、豊富な経験や専門知識を持つ一定の要件を備える方を対象に、申請にもとづいて、「書面審査」「面接審査」を行い、一定の基準を満たした方を「環境カウンセラー」として以下の部門ごとに登録します。

【事業者部門】 【市民部門】 がある。

《参考》 NPO法人環境カウンセラー全国連合会 ホームページ <http://www.minnanoecu.com>



(上枠内をクリック。時系列での記録掲載)

長澤利枝の投稿『忘れないで 福島』震災後9年間の記録があります。これからも続けていきます。

その2. 【ありがとう！エコフェア in みなみそうま】打ち明け話

【エコフェアinみなみそうまフェア PART15】は4月14日(日)道の駅 南相馬で開催予定だった。最終打ち合わせは、3月12日！しかし前日 3月11日 午後2時46分『東日本大震災』が起き、やむなく事業は中止に。



それぞれ避難生活を送ったが、ほどなく仲間たちと再会被災地は、放射能の不安と物資不足で混乱の状態だった。街は、置き去りにされ痩せ細った犬や猫が徘徊。生きることにも動物も必死だった。

全国からの支援によって窮地を脱することが出来、ようやく余裕が出て来た。

1年後、皆様のご厚意に感謝を伝えるため

【ありがとう！エコフェア in みなみそうま】の開催に至る。

その3. 名称の変更

(7P～8P)

2013年2月11日 実行委員会で、団体名を下記に決定。

『[相双地方地域再生創造プロジェクト実行委員会](#)』

以降、事業実施・申請書・地域活動・その他に使用する。

その4. 2012年～2020年 再生事業の主催・共催・後援の詳細

- 主催 相双地方地域再生プロジェクト実行委員会
- 共催 (株) 道の駅 南相馬
- 後援 福島県相双地方振興局 南相馬市 南相馬市教育委員会
南相馬市博物館 福島県立相馬農業高校
NPO法人環境カウンセラー福島協会 NPO法人環境カウンセラー全国連合会
NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会 風人茨城環境カウンセラー協会
福島県建築士会相馬支部 福島県建築士会相馬支部女性部会
東日本高速道路(株) 東北支社 (株) ネクスコ エンジニアリング東北
西部緑化管理(株) (株) 高良 (株) バイオ技研
NPO法人相馬サポートセンター NPO法人さぽーとセンターぴあ
NPO法人fufu隊 カウンセリングスペース“さくら”
堀内流民謡澄声会 雲雀法螺貝愛好会 南相馬女声合唱団「はなみずき」
琴古流尺八舜童会

その5. 会場借り上げについて

- ▲ 再生事業、被災地視察団体との懇談会、その他会合について、(株) 道の駅 南相馬 の施設を使用。特に再生事業は、全施設の使用を快諾。合わせて、事業に必要な備品の貸与を受ける。イベント中に不都合が生じると即、職員の方々が対応して下さいました。
- ▲ 2019年12月27日～2020年1月3日
【福島を忘れないでパネル展示】をセデッテかしま多目的ホールで開催。
借り上げについて、目的・効果等を説明。即快諾を頂く。準備に当たって、パネル等備品の用意を事前にして下さった。8日間の長丁場だったので、昼食等その他細かい配慮をして頂いた。お陰様で他県の多くの方々に伝えることが出来た。

【 感謝を申し上げます。ありがとうございました 】



道の駅 南相馬 外イベント会場設営中
道の駅スタッフ、メンバーと一緒にテント張りを。
テントは道の駅 南相馬さんから借用
完備した調理室から、沢山の料理を来場者に提供できた。

その6. 《再生事業エピソード No.1》

私たち有志は、前述に記載しない再生事業を実施。思い出と心地よい時間を共有した。

【 甲冑体験 】

▲ 2015年7月25日 (土) ひばり生涯学習センター

NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会8人着付け体験 着付け岩橋氏
初めて甲冑を身に着けご満足。良い思い出になったとのこと。

▲ 2015年5月1日 (日) 【 にじをつなぐ～友・有・悠 4回】 着付け場所 道の駅 南相馬ギャラリー
岩橋氏が銘醸館収蔵甲冑を借り、来場者・出展者・実行メンバーに着付け体験を行った。



左上 NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会仲間たち
甲冑姿で気分は武士

上中 着付け中。岩橋氏無駄なく調える。

左 上 なんかちゃってチンドン屋の後ろに従う武者

左 ネクスコエンジスタッフ 男武者と女武者に変身

【 アロマキャンドル作り 】

▲ 2016年8月21日 13時～15時 大甕生涯学習センター会議室

▲ 対象 大甕地区住民 地区外参加歓迎

避難先から戻った住民は、引きこもりになっていた。各サークル活動は休止状態。

みんなが集う機会として「アロマキャンドル作り」の実施。

約30人の参加。作品作りながらのおしゃべりが参加者を癒した。



今から始めます



作り方は・・・



ロウを溶かして色付け



作品完成 デザート付きお茶

楽しい時間を共有。

みんな満足！

「このような機会をもつと作ってね！」。

やって良かった・・・

《再生事業エピソード No.2》

再生事業の準備は、年明けに始まる。実行委員会は持ち寄り手料理で、腹ごしらえと体を温める。

食べることおしゃべりで1時間。本題に入るのはその後。

資料に従って進めていこうとするが、何故か脱線ばかり。

見かねて、取りまとめ役登場。

「大丈夫～最後の10分でまとまるんだから、心配しなくていいんだよ」

メンバーは「このゆびとまれ」で集まる。明るいのが取りえ、兎も角にぎやか。

しかし、ことが始まると各分担作業の進め方は手早く、行動力に脱帽。

イベント準備中は、アクシデントが付き物。さらりと事なきに至る。太っ腹。

50代男性：原発事故後、福島に移住。どの様な経過で、私たちの仲間になったのかは分からないが、彼なりの働きで必要不可欠な助っ人マン。

類は類を呼ぶ・・・この会に後から入ってくる人も、企画力・行動力に優れている。一番若い40代保育士女性は、福島市から移住。そして入会。当初から積極的に行動。頼もしい。

2013年4月15日【 にじをつなぐ～友・有・悠～第1回 】。40年振り的大雪に驚愕。メンバー、ボランティア総出で会場作り替え。岩橋さんの指揮はお見事。

ネクスコエンジニアリングのお2人は、仙台市から来る。とてもさぐい(気さく)人たち。草野さんは途中転勤したので、名倉さんが必ず仙台市から夜の時間帯にやって来る。

役割は、話の内容を判りやすく～論理的な話に苦手な仲間たちの通訳係。尊敬の的。

講談社から小沢一郎氏来場の日は、大雪で到着午後一時過ぎ。『キッズフォトジャーナル』に間に合い全員ほっとする。

ステージの花はメンバー宅へ伺い、お庭の花を採る。自由に選ぶようにという心遣いが嬉しい。

4月、5月は花の種類は多いが、ステージに映える花木選びは難しい。

いろいろな出来事がありました。み～んな 思い出！



わいわい～がやがや 実行委員会メンバー 楽しい愉快的な仲間たち

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？



お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

和

南相馬に行くことが楽しみでした！
すばらしい皆様と知り合えたこと
感謝です。

鈴木京子

みやこさんです

たのしかったです……

川西都

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お元気ですか？



《編集後記》

準備を進めていた【めざそう～和と話♪環と輪 第2回】は2020年3月、コロナ感染拡大によって中止に至りました。2021年になってもコロナは収まらず、厳しい自粛生活が続いています。

長引く閉塞感の中、思いがけなく出来た時間に、これは『東日本大震災』の再生事業を記録として残す絶好の機会と思い立ちました。8年間の実践記録の組み立てを始めると、私の資料だけではとても形になりませんでした。そのような折り、原美幸さんから10年間の記録ファイルの提供を受けました。この貴重な資料で作業が進みました。

企画に基づいて作業は進みましたが、記録誌として残すには内容の不備が多過ぎました。環境カウンセラー仲間として長い付き合いのある倉田智子さんに、原稿の編集をお願いし、2カ月間お付き合い頂きました。このサポートによって刊行に至りました。

寄稿文を快諾された方々はじめ、実行委員会の仲間たちに支えられて記録誌が出来ましたことに、心より感謝を申し上げます。

【2012年から2020年 仲間たちと続けた再生事業】

《発行日》 2021年11月1日

《発行者》 相双地方地域再生プロジェクト実行委員会 会長 長澤 利枝

《住所》 〒975-0042 福島県南相馬市原町区雫字上江256-31

《TEL&FAX》 0244-22-2917

《E-mail》 toshie.nagasawa@gmail.com

《編集》 倉田 智子 NPO法人千葉県環境カウンセラー協議会

《資料》 原 美幸 福島県建築士相馬支部女性支部

《印刷》 (有) 愛原印刷所